

山田裕樹

からっぽ

砂浜の近くに坂本龍馬の  
顔はめパネルがあったので  
私はそこに顔をはめて  
先ほどまで私が立っていた  
空間を見つめた  
誰も写真を撮ってくれない  
そりゃそうだひとり旅の途中なのだ  
はめていた顔を外して  
元の場所に戻った

からっぽの龍馬の顔  
けれど実はからっぽではなくて  
丸く切り取られた向こうには  
空と海が広がっていることに気づいた  
しばらく見ていると  
波が少しずつ白く泡立ち  
大きな船が通り過ぎて  
それからまた波は落ち着いた  
汽笛だけが遅れて  
龍馬の顔の中で響いている

私はそれを写真に撮らなかった  
私はからっぽの空にレンズを向けた